“現代的・社会的課題をどう教えるか”

准教授　塩田　真吾（教育工学）

1981年10月生まれ、2010年早稲田大学大学院博士課程修了、2009年静岡大学教育学部助教、2011年静岡大学教育学部講師、2015年静岡大学教育学部准教授
2019年より第４期若手重点研究者

研究概要

現在の学校教育では、国語や数学といった教科教育だけでなく、情報や環境、キャリアなど様々な現代的・社会的課題を教えています。こうした現代的・社会的課題は、進行形の問題が多く、明確な答えが定まっていないため、「どのように教えればよいのか」という課題があります。

例えば、情報社会の進展とともに、情報モラルも重要になってきています。しかし、この情報モラルをどのように教えるかは、実は難しい課題です。トラブル事例を紹介して、「こんなネットトラブル事例に気をつけなさい」と教えたところで、「自分にはそんなトラブルは起きないだろう」と考え、「自分も気をつけよう」とは思いにくいのです。

私の研究室では、こうした情報モラルなどの現代的・社会的課題について、どうすれば自分のこととして考えられるかという「自覚」をテーマに研究しています。特に、情報教育では、自覚を促すために「認識のズレ」に着目し、自分と相手が認識する「嫌なこと」のズレや「不適切な写真」のズレ、「使いすぎ」のズレなどを実感させることで、「自分もトラブルにあってしまうかも」というトラブルへの自覚を促す教材を開発しています。

「嫌なこと」,「不適切な写真」の認識のズレを実感するカード教材

メッセージ

私の研究室では、学校現場の課題、特に現代的・社会的課題を実践的に研究しています。教育工学の中でも、より実践的･応用的領域になるので、実際に学校現場に伺って研究を進めることが前提となります。「現場」、「現物」、「現実」の三現主義を重視し、学生も理論と実践の往還の中で学びを深めていきます。

また、様々な企業と共同研究を行っていることも研究室の大きな特徴です。例えば情報教育では、LINE株式会社や株式会社カスペルスキーなどの情報系企業とともに「情報モラル」を学ぶ教材を開発し、学校に無償で提供しています。企業や学生と試行錯誤しながら新しい教材をつくりあげ、その教材が多くの学校現場で活用され、子どもたちが楽しみながら学ぶ様子を目にすることが、研究の一番のおもしろさです。

【主な研究業績】

受賞歴：
第４回日本環境教育学会 研究・実践奨励賞（2008），日本エネルギー環境教育学会 研究論文賞（2011），第32回学習デジタル教材コンクール奨励賞（2016）など。

外部資金獲得状況：
科研費若手研究B「長期的視点に立った情報モラル教育の評価指標・方法の検討と評価システムの構築・実証」（2014－2018），早稲田大学・ブリヂストンW-BRIDGE「ICカードを活用した相互学習型環境学習の研究」（2014-2015）など。

委員等：
静岡県ネット安全・安心協議会 委員長（2009-2016），静岡県中山間地域の小規模校におけるICT活用推進事業検討会議委員（2017-2018），文部科学省「青少年を取り巻く有害環境対策の推進」技術審査委員会技術審査専門員（2018）など。

著書・論文：
１）『行動改善を目指した情報モラル教育』静岡学術出版(2018)
２）「当事者意識を促す中学生向け情報セキュリティ教材の開発と評価」コンピュータ利用教育学会「コンピュータ ＆ エデュケーション」Vol.44,pp.85-90(2018)
３）「情報モラル教育の指導に活かすための診断システムの開発と活用」,コンピュータ利用教育学会「コンピュータ ＆ エデュケーション」Vol.42,pp.43-48（2017）

若手重点研究者